

公益社団法人日本心理学会研究集会等助成金成果報告書  
2019年度報告書

代表者氏名	李 艶	所属	聖泉大学 人間学部
研究集会等名称	文化と心理学		
成果概要	<p>1) 参加人数 (会員・非会員及び認定心理士の人数を記載してください)          会員 8名 (うち認定心理士 8名)          非会員 7名 (うち認定心理士 5名)</p> <p>2) 集会等の目的・成果等  <b>2019年度助成研究期間には、研究会3回、一般公開講演会1回を開催した。</b></p> <p><b>2019年度</b>は昨年度の続きで、新たに二つの分野から切口として文化と心理学の関係を検討した。一つは社会心理学分野、特に社会的動機づけ、国民固有感情、人間関係、異文化適応の視点から、文化と心理学の関係とその次元、もう一つは文学、言語学、宗教心理学、民俗学視点から、なぜ人間が一つの心に多様の精神性を持つのか、その深層を探った。</p> <p><b>2019年度一般公開講演会</b> (「文化と心理学研究会」通算第14回講演会の報告 2019年11月22日聖泉大学で日本心理学会「文化と心理学研究会」第14回講演会が開催されました。          講演のテーマ：【女性の地位向上のために 一與謝野晶子の教育思想と「源氏物語」一】          講師：平子恭子先生          講師先生は在学された大阪教育大学や同大学大学院にて、歌人の與謝野晶子についてのご研究をされ、さらに大学院ご修了後も現在に至るまで長年にわたって続けておられ、與謝野晶子に関する優れた研究書を何冊も刊行されています。そのため與謝野晶子研究の第一人者として高く評価されていて、奈良女子大学や大阪府堺市の社会教育講座の非常勤講師も歴任されています。          講演は以下の内容要旨で行われた。          「與謝野晶子 (旧姓 鳳) は、日本文化の源流ともいえる『源氏物語』を学んで成長し、夫の與謝野鐵幹とともに、近代の短歌革新を成し遂げた。しかし短歌の世界に留まることなく、先に渡仏した夫に続いて渡欧し、西欧の社会・学問に触れて強いカルチャーショックを受けた。帰国後、西洋の近代哲学思想などを学び研鑽を重ねて、特に女性の地位向上のための評論活動を展開した。さらに、1921年 (大正10年) に私学の「文化学院」 (中等教育) の創立に携わり、先進的な文化内容の教育実践に取り組んだ。また、当学院は1923年 (大正12年) から、本邦最初といわれる“男女共学制”を始めた。」          最後に、講師先生はこれから日本の社会でどのように女性の地位を向上するかを助言された。          講演は大好評で、参加者から以下のような感想を頂きました。          今日の講演会を聞いて先進的な文化内容の教育実践に取り組み、本邦最初と言われる男女共学を始めた人とわかった。          与謝野晶子という名前は聞いたことがあったのですが、生き方考え方は今日の講演を聞いて初めてわかった。          与謝野晶子の女性地位向上のためにいろいろなことをしてきたのがよくわかりました。また、世界に出て学ぶことはとてもすごいと思いました。</p>		

公益法人 日本心理学会 文化と心理学研究会  
2019年度 参加者リスト

山谷 海夕  
森田 珠莉  
松島 凱  
藤岡 広大  
谷田 みずほ  
武田 真悠子  
島田 久嗣  
坂本 浩大  
斉藤 もえか

吉島 宏樹  
横路 友加里  
梁 鍾先  
山中 一輝  
山田 真南美  
目片 結万  
水野 嘉人  
松井 水咲  
藤内 彩香  
島山 拓人  
服部 芽恵  
中野 世須花  
登坂 息吹  
黒葛 真生  
土山 桃香  
武田 純奈  
徐 龍圓  
鈴木 卓磨  
梶森 瑠夢  
佐藤 史菜  
倉永 奈由子  
桐村 涼太  
桐原 和奏  
木村 祐太  
艾 宇翔  
川端 海友  
川井田 朱莉  
河合 鈴  
亀井 玲那  
加藤 充晶  
小野 太悟  
大平 龍聖  
大谷 琉晏  
植村 真史  
植田 要  
天久 翔斗  
石田 真規  
隆 重  
方 予辰  
傳 予  
孫 瑞祥  
鐘 燕榮

牧野 純也

西村 祐佳里  
永瀬 達也  
辻川 詩織  
岩間 溪太朗  
隆 重  
傳 予  
孫 瑞祥  
鄒 詩  
楊 登翔  
布施 薰  
中西 翔大  
上村 瞭雅

2020年3月16日

日本心理学会研究会 2019 年度会計報告書

研究会名称 文化と心理学研究会

研究会番号 研 2019-1

助成金額 ¥30,000

年月日	項目	金額
2019年11月22日	講師謝礼と交通費(講演会)(1名)	¥30,000

合計 30,000

注：研究会活動のほかの費用は李艶が個人負担しました。